

北
諧
饒
舌
錄

下



饒舌録下卷目錄

あそれむむび辞

七十八のひろ

こそれ部

七十九のひろ

外れむむび辞

八十のひろ

ほくれ部

八十一のひろ

うそれ部

やうそる法

百六のひろ

おひのがふ百十のひろ

はくれ部

百十二のひろ

下知り切格

百十二のひろ

へ
と。是。あ。い。と。あ。い。と。あ。い。と。あ。い。と。
む。さ。さ。さ。い。と。あ。い。と。あ。い。と。あ。い。と。
さ。さ。さ。い。と。あ。い。と。あ。い。と。あ。い。と。

め
まめ つめ つめ まづめ まめ いめ ため まづめ うめめ
あゝこめ らめ うめめ うあゝめ をめ こめ たのめ
けむひのむろもこまめをいふ又
えめすめせめ いそめ 思えめ らめ けめあうてめ
こねられんのそこまめをいふ

[illegible]

けれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ
けれぬれのる。きれれをり
けれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ
めれ　けれぬれのり。ぬれぬれぬれぬれぬれ

兄ーまー 兄ーまー 兄ーまー
 ソーありーありーありー
 けねひのままに。いつのまに
 やねてそまのままに。いつのまに

けかいかの畧言あればまゝとすむべし 濁ひひきふ

現在き

是ハ日本紀万葉集六例あり古今集よりこれよりハ
あ

あ
さ
ら
ら
け
さ
ら

三子孫

一七二八

丁

子孫

子孫

戊

子孫

子孫

己

子孫

子孫

庚

子孫

子孫

辛

子孫

子孫

壬

子孫

子孫

癸

子孫

子孫

め

筆をとりて詠ふことめ夕時ぬ

其角

是ハ夕時ぬれハのをとりて詠ふことめ夕時ぬ

是ハ夕時ぬれハのをとりて詠ふことめ夕時ぬ

め

炭焼のおれがまことめ

重五

古今

夕月おどつあきをむらげふえに浦はあけてこそめ

是ハ夕月ぬれハのをとりて詠ふことめ

日

大原やを山もくもく神代のももちひぐさ

是ハ大原ぬれハのをとりて詠ふことめ

日

逢ふのわきもくもくあけぬけはうらやまありそ

是ハ逢ふぬれハのをとりて詠ふことめ

日

あそびに中はあそびなめさふはのしきぬれハ

是ハあそびぬれハのをとりて詠ふことめ

日

ちりぬれハあそびなめさふはのしきぬれハ

是ハ夕月ぬれハのをとりて詠ふことめ

逢ふのわきもくもくあけぬけはうらやまありそ

是ハ逢ふぬれハのをとりて詠ふことめ

古今

あそびに中はあそびなめさふはのしきぬれハ

逢ふのわきもくもくあけぬけはうらやまありそ

日

花の香ふはらあそびなめさふはのしきぬれハ

是ハ花の香ふぬれハのをとりて詠ふことめ

逢ふのわきもくもくあけぬけはうらやまありそ

是ハ逢ふぬれハのをとりて詠ふことめ

世のまよふそげあそびなめさふはのしきぬれハ

是ハ世のまよふぬれハのをとりて詠ふことめ

● 機舟をのりてあそびなめさふはのしきぬれハ

逢ふのわきもくもくあけぬけはうらやまありそ

是ハ逢ふぬれハのをとりて詠ふことめ

創小まよふそげあそびなめさふはのしきぬれハ

一れ

元日小田毎の日こそ恋一れ

ちや紙

恒指

あゝえればんあゝえれ海ふる今ハ声こそききあけり一れ

●そのまきり白

●ミガム報小一まきれさく狩

●鳴兼もさるいんをおう一れ

是ハよふこそともあきふれこゝろるがそのま

古今

遠くハ意こそちれみあせ川あうやめおひそあん

是ハ下のぶん一ま切り一

れ

くごむせ月こそづれ歌さく

莫太

是ハちる様くごせ月こそづれと知り

日

沖は波さゆのまけ浪松の名こそ思をまうこ一れ

れ

箕保谷が首れ骨こそ甲われ

仙化

恒指

けえれよこそまきり一あきれもつでいえてあめあれ

れ

筆ねむきふこそまれ初時る

莫太

古今

是ハ初一れうさたむきふこそ一れと知り

けけこそハ増れちりま鳴り一よるハあきれとて一れ

れ

新人殺舟あれバこそまみれ

具角

れ

嶋むろよまきりこそ時面れ

日

叶はむろハ魚の名こそ是ハ英一様がけく流さると其
角は名状ををうこそ時守とありなバ魚をむさすて
せのまきりハ魚の腹ハ木の葉を入座一まきり
ねん時おれがひさたさと思ひられまきりハ
これぬ其角年ハむれどもさげ或時をうけ
魚のまきりハ木葉のつゝたるをねく是こそ繋りつる
とまきりハ一様がなあり一ものを茶子ハ入り
一時のまきりハありとちや一様ををうりき

けり

[illegible]

是ハ三のちつちまてこそとありて下へおれと二は入
てやまこそことありてはたか

古今
津のふれあふはたか山城のふれあひにんあふのこころ。

な鼎

あーたづのほきや年ハへぬれどもあちハ世のうへへのこころ。

万葉集

是ハ三とありて下へおれと二は入てやまこ

あふのふれあふはたか山城のふれあひにんあふのこころ。

是ハ三とありて中ので文字のちつちまてこそと
ありて下へおれと二は入てやまこ
をハ三とありて下へおれと二は入てやまこ
はたか山城のふれあひにんあふのこころ。
我ハ三とありて下へおれと二は入てやまこ
はたか山城のふれあひにんあふのこころ。
をハ三とありて下へおれと二は入てやまこ

●こそありてはたかのふれあひにんあふのこころ。

子五郎

●是ハ三とありて下へおれと二は入てやまこ

是ハ三のふれあひにんあふのこころ。
とありて下へおれと二は入てやまこ
はたか山城のふれあひにんあふのこころ。
我ハ三とありて下へおれと二は入てやまこ
はたか山城のふれあひにんあふのこころ。
をハ三とありて下へおれと二は入てやまこ

いひなむてむもぶ格

いひな

あふこそ侍乳の山に郭と

無名尼

是ハ三とありて下へおれと二は入てやまこ
はたか山城のふれあひにんあふのこころ。
我ハ三とありて下へおれと二は入てやまこ
はたか山城のふれあひにんあふのこころ。
をハ三とありて下へおれと二は入てやまこ

金葉

是ハ三とありて下へおれと二は入てやまこ

はたか山城のふれあひにんあふのこころ。
我ハ三とありて下へおれと二は入てやまこ
はたか山城のふれあひにんあふのこころ。
をハ三とありて下へおれと二は入てやまこ

物部

是ハ三とありて下へおれと二は入てやまこ

はたか山城のふれあひにんあふのこころ。
我ハ三とありて下へおれと二は入てやまこ
はたか山城のふれあひにんあふのこころ。
をハ三とありて下へおれと二は入てやまこ

外よりかゝる時のむきび討

六く

あゝひくこぐせくきくかくあゝさくゆくたく
やぐそぐうぐのぐくさぐあびくいぐたく
あびあゝけおひの下をる。ふつそれぬ。さうけ
おひのふぐのや親あまよりかゝるむきび何ハ
とあ肩ド一何ありのこ

く

かゝたあゝあゝあぐさぐづく
けおひのふハをる。ふつそれぬ。をわのうりれ時ハ
あぐたあゝとむきぶ格と
上よりぞのや親あまよりかゝる時ハ。あぐ。たあゝ。
とむきぶ格と

六ま

こさやぐささささあさほぐこさあさ
かさふさうさ
けおひの下をる。ふつそれぬ。をわけおひのふハぐのや
親外よりかゝるむきび何ハとあ肩ド一何ありあゝ

ま

足さよりさきさあさ
けおひのふハをる。ふつそれぬ。をわのうりれ時ハ
ふさささ足さとむきぶ格と
上よりぞのや親あまよりかゝる時ハ足さ。ふさ。さささ。
とむきぶ格と

ま

ト

あゝまきささ足さあぐさぐせぐ
あゝまきささ足さあぐさぐせぐ
トお里語ハマイとあぐさぐせぐ
上よりぞのや親あまよりかゝる時ハあゝ。まき。とそれ。
とむきぶ格と

六つ

まうらうらうらあゝこが
けおひの下をる。ふつそれぬ。をわけおひのふハぐのや
親外よりかゝるむきび何ハ肩ド一何ありあゝ
あゝまきささ足さあぐさぐせぐ
けおひのふハをる。ふつそれぬ。をわのうりれ時ハ
とむきぶ格と

くれあつふひづちうおのえでまたさふありともたゆ

二 此分の白うぐくしにまゝ葉をりける人乃神とぞんる



見る 志る ちる みる する づる のる やる する おる 要る 思ふ
 かゝる 減る 降る 増る くる つる くる 減る 殖る たぎる
 さぐる うる みる する 守る 光る くる 志る 走る
 づる ぞる 成る

けぢいひのゐるハツを引くとハツをぬる。而て字の例よあるを
けぢ格を移さるゝ。けぢいひのゐるハツの例、疑ふのゝりれ
時、もきび詞ハとあ同ド一ウ同あるよとけ(六)予此ハを
つふひひ乃とハとある。常ニ切々格のたゞよつて
さよによりて切れる。つぎもさよとんべー

る

あぐるみでるまゝあるはとる己う思ふ
かる隙。

けしきひのる。ハ下を引くもつるを あぐ。みぐ。こ

ちまふ格あり

上よりどのや穀やまゝうも時ハみゝゝあゝあゝと
いゝゝいゝゝとむきぶ格と

5

けりおりありせりたりめりをりねり
はねひもふりとむきぶ格へ

上よりぞのや穀あまうる時ハけねひハふるといふハ格

子去

ひきてき、んき、んき、はき、うてき、いしき、ちりき、
ざりき、るき、ちりき、ありき、ふりき、おひき

け敷ひる雲のきそやむきふ格は是にけりの及ぶき

上よりそのや 数少きうる時ある云の。それより
 引く ちり あり あり あり とある格と

子部

現在

のびー　めさー　たのー　びー　をー　うめー　やー
くさー　亭ー　ふれー　かきー　さびー

計數ハ現在能ハ
之ヲモテ格之

上より下の刊穀あそくも時ハ現在のものよき、あき
るき、つぎあさき、ふき、まき、べきのどけきめでたき

no - Transfer to - Transfer to - Fire - over

外部部

外とどのや題を其外と云ふべし

てふをくはるゝとて

○此下註本五切上卷一

くまにふむゆるり 五音 現在

百寶堂藏書

五

此：海軍大臣の報告に依る。



秋江月夜圖

鬼員

是二河と穀田を以てして下なる文を以てして河
 下の穀田を以てして下なる文を以てして河

有明乃公之

中邦

第六步 選擇合適的 α 值

古今 世にちて家屋一をばうんはしはひりあう声ハおきぬ せい

千鳥歌 依保の川歌に云々 山崎東山 氏

予勒

六 屯

此乃五林公之親筆

一 游

[illegible]

六 步

王羲之草书《兰亭序》局部

行 如

[illegible]

行水滸河的文章

[Handwritten signature]

長生

卷之六

典立

品：月₁、₂、₃、₄、₅、₆、₇、₈、₉、₁₀、₁₁、₁₂

万紫

Handwritten notes:

with the same
method as above

玩

für die musikalische

नाम

[illegible]

吐

田部 正之助

樂 記

古今

1. $\frac{1}{2} \times \frac{1}{2} = \frac{1}{4}$

2

卷之十

五世

子沽

男：子承父業，家傳萬古。

二

陳子昂上書

2 5

此：新大正十一年九月一日

千載

[Handwritten signature]

五

Handwritten text: *Handwritten text, possibly a signature or name, written in cursive script.*

5

Handwritten signature: *Wm. L. G. Smith*

通 路

Handwritten signature

5

此後之世

海鹽

此は、秋のふゆと、春のふゆと、夏と、冬と、の四時を、
それぞれ、ふゆと、ふゆと、ふゆと、ふゆと、の四時を、

己の森の虎也。一。猫乃虎

卷六

[illegible]

おんれの樓おんれのあゝ

阿本

是、政府下の第一米穀の取引所

這機

龍
 龍

七、秋

新井 氏の「日本の政治小説」の序文

古今

我 爲 此 事 而 感 到 幸 運 之 至

是ハさういふ一帯や、秋山よる日こそ我人
あはれあはれと切なり

早ぬ 秋風乃んうきぬ縄まじれ 嵐

是ハ縄まじれ秋風のうきうきぬと切なりけりハ万葉
四ノ

あはれと我意をわがが者のまじれとて秋風乃ん
うきうきと下の白も切なり

早ぬ 切ら脱てはあひぬ衣ぞく 毛

是ハ更衣ヲ脱てうきうきあひぬと切なり

早ぬ あはれとてあはれなりぬ月の面 尚白

是ハ月の面ありとて今も月にありぬと切なり

早ぬ 年まぬまをきとていづれを切なり 毛

是ハ年まきとていづれをきとていづれを切なり

早ぬ 肉衰へも善き入ぬ草なり 橘

是ハ肉衰へも善き入ぬと切なり

早ぬ 而今あおれぬまを切なり 其角

是ハ不ぬまを切なりとて切なり

早ぬ 郭公今やいよおをいづぬ 壽伯

是ハ今やいよおをいづぬと切なり

切をいふまへあはれとて下ハおのうきを 早ぬまを切

いづり早ぬぬめれ乃里語ハ テシマフ ヤウニナル テシマフ

早ぬ 人志れど今や今やとちやあはれとて切なり

是ハ今や今やとちやあはれとて切なり

早ぬ 唐の夜もみどかありぬ 嵐

是ハ唐の夜もみどかありぬと切なり

切格の有ハあはれとて切なり

物古今

谷川の流水一清くまみぬれくまなき月乃がもろびぬ
古今 歌をきむくわく知事をとくしつてまれ物よりうき縁を結ぬ
日 春のけふも来つとんとここのをちりうき花ふるはまぐひぬ

⑥ふ **むくく白ふ花の実をて陳皮と** マデモ マデモ マデガ 其角

是ハ花の實をちんひさくむくくまふと切なりけんと
りや何れをふのさくさふべくくくくの里倍ハ マデモ マデガ
モデタとくくくくくくくの里倍ハ ナリトモ デモ あり

⑥ふ **さあはるるをさふ年の暮** 除風

⑤ **春もやけきとのふ月と梅** くらげ

⑥ふ **けし煙は塔のくくく花もさふ** 香丸

台紫 くらげなき豊のちりふあふある朝日のさくはむくくさくくふ

後千載 今もかきもさあけの月もさくくく秋の湯山をかりひくくやれ

⑥む **人よ似く猿もさくく知れ風** 弥碩

是ハ秋の風人よ似くさくくもさくくく切なり

⑥む **榎の葉井よ人よがけ月かむ** 栗飢

⑥む **洗淨のまぬがさくくむ柿のふ** 鹿芝

是ハ柿の花せんくくれきぬ。さくくくむと切なりけり
かみせんくくやとあれとも写本の方ハせんくくのと
ありてふく洗淨かあがむやあぐくも何れハ写本
の方をさくく

伊勢物語 けり切あきさくくの田もハけりあむ我々里は声たくれハ

是ハあきさくくさくく声くくくバツありあき
さくくの田もハあけたのむくくあき

千載 さくくや国はく神のくくさくく都ハ月けりくく

六むん

つらきふ男な。ん。のきりだ。

一井

六むん

をみく。目入まん。く。さ。さ。

鱈甲

六むん

し。り。痛。も。よ。き。宿。と。ん。初。日。

玄来

六むん

市人よ。ど。是。く。ん。き。お。登。

古成

六むん

浮。葉。よ。き。葉。け。蓮。風。情。さ。く。ん。

ふ堂

六むん

元朝の見。物。せ。ん。富。士。乃。山。

宗隘

是ハ元朝乃山。の山。より。のふ。せ。ん。く。け。り。し。は。の
の文字。わ。ん。を。つ。て。べ。一。富。士。の。山。と。い。ふ。の。の。文。字。く

六むん

宿。り。せ。ん。薬。の。ほ。え。な。る。日。を。

大せ成

是ハ薬のつ。え。な。る。日。と。あ。り。せ。ん。と。い。ふ。り。是。あ。も。い
より。か。り。り。これ。も。も。お。の。り。と。い。ふ。

六むん

強。念。を。す。て。お。ん。を。し。り。解。

大せ成

是も初。解。う。ま。う。を。す。て。い。で。け。ん。と。い。ふ。

いせ成

是。方。も。う。く。り。ど。あ。り。か。る。行。是。の。り。の。系。と。い。ふ。り。め。ん。

影古

あ。れ。ど。も。同。も。さ。つ。め。昔。の。系。と。い。ふ。り。あ。く。も。あ。る。ハ。も。り。け。ん。

古

秋。是。方。ハ。を。解。り。か。る。も。さ。け。山。乃。松。の。系。と。い。ふ。り。あ。る。も。ん。

影古

い。れ。ど。も。さ。つ。み。と。い。ふ。り。ハ。昔。と。い。ふ。り。あ。る。も。ん。

古

山。も。も。も。め。め。け。と。い。ふ。り。あ。る。も。ん。い。れ。え。と。い。ふ。り。

六むん

神。よ。い。ら。ん。田。原。は。あ。の。降。と。い。ふ。

大せ成

是ハ田原。れ。あ。の。の。降。と。い。ふ。り。神。と。い。ふ。り。と。い。ふ。り。け。り。ハ

廿二の。と。い。ふ。り。次。の。白。へ。り。と。い。ふ。

古

秋。の。神。れ。原。は。あ。の。の。降。と。い。ふ。り。あ。あ。と。い。ふ。り。と。い。ふ。り。

昔もあかりをあるの^二ハサニ^一の^二と^一て上へて
秋の^二それ屋敷^一ま^二より^一雪光の^二あや^一や^二長ん^一
あ^二ま^一ま^二い^一け^二あ^一て^二助字^一のを^二か^一ふの^二と^一乃^二に^一を
い^二ね^一べ^二ー^一山^二言^一い^二カニ^一い^二ま^一を^二あ^一い^二カニ^一
い^二ま^一あ^二れ^一ハ^二深^一を^二あ^一い^二カニ^一い^二ま^一を^二ハ^一助字^二と^一

村時多筆此破也子星六尺也

必
なまけ 雲よりまことの花もさめぬ
素伯

をハキの比に之入のてひをぬる也。し切りけゆと事なり
をういむづぬふむるをよみてくも引もあど

るものやうなねえさんあれもさうさうゆめりれあも
にれはさうなねえさんありあう

上より 外のうり 時ハ 尺也 寸也 と云まじび
上より 穀ハ 米より 時ハ 尺也 寸也 と云まじび

卷一

ちぶ谷のすねの^峠よりそふこもる波^{イヨク}りやちくふり[○]おき[○]

ちむ谷ハ越中ノ

六
ろ
あきくし 袂より出る秋の蟬
一井

是ハ秋のそゝあきくそ往ゆふふらとわたり

六
ろ

はくろ

青江

是ハツク一ツあり。中よふあると切なり。

初雪北中
も袴着る
爲る

六
ろ

ろをうへも年よるまの時を
たせぬ

是ハ才氣多ク人モ年々上リ

り よれまのを笑ひかり。山樞 乙由

是ハ山樞よりよきものをとひかりとやう

り 人とい人もあふなり。秋の雪 秋村

是ハ秋の雪人といふもろきなりとやう

り うるう酒の肴心。這せけり 其角

り 朝顔のさむむ側う。蒼けり 木阿

り 石のぐみ木槿ハ馬よ。とれり もせ

り 穴達う。青穂が。砂を拾ひり 其角

り 松より。常れ。朝日と成りけり 不角

り くる年ハく。と。これよけり 彦川

り 初あれ。猿も。小葉を。ほけり もせ

り 折れ。ちり。おれ。が。散り。けり 鬼秀

是ハけり。花。おれ。ちり。おれ。ちり。とやう

り 大和敷氷の。う。を。あづる。えり 和之

り お苗。と。命。れ。も。き。ん。花。せり 宗因

り もの。や。す。ぎ。に。花。ハ。ちり。けり 了阿

り 先。の。む。推。花。も。けり もせ

是ハ花。本。さ。き。の。む。花。の。本。も。あり。とやう

り 大和路。れ。も。れ。春。も。さ。り 大庫

り 風。乃。も。う。あ。り。けり。海。の。音 言水

是ハ海。の。音。あり。とやう

ゆれあそびふたりはの月

夜兔

り
松の月枝ふさふさ

來山

入損益あり。六月兩

清
夏

是ハ子月入おゝれてのちありとちり

二階子彦子 郭公

能隣

是ハ何モ其ノ中ニハ二ツヨクハナリ

夕靄の毫ぶさういあうけり。

乙酉

り
色くをきんて白糸
（とらりる）

別
余

鳥羽
ぬれ
土
朝

文求

呉あきさうき
印ふぬれて
きなりと切り

古今

みかんは花のちるもふなりぬふり
 苦の徒よかききなりせよ

今整

黄代の水ハ稻をよするせり。民やもげある君が法代のき

古今

るさうなりや、素良都も色ハそゞろ花ハされり。

新

切
 高の
 多
 非
 振
 づ
 して
 志
 め
 上
 中
 治
 ハ
 冬
 ぶ
 ら
 せ
 の

存按

いふ海にたづねありてふきんハ不志ぐり。

私

神を月とぞれぬ
 葛の糸とぞ
 神は塵もふり

古今

わぶありと名よそきたる様。是とふれある人も侍なり。

月

[illegible]

讨

古今の春めきふたり三すけみつきがふとくをみあへり

風
雨

育王^レた^レまけ^レひあ^レ郭公^レと^レあふんわ^レ

山 紗 子 公 子 少 子 孝 子 花

有風

是ハニホロ山ガルヒヲハナクモト切リ

花の心 暖かい人 紅ざりき

秋村

糸序をせふとぐいをまのせてき

●それをはな

● 部々て事を明と森然と ●

是ハおきとつゞきをとも玄の。少てあつるハと
のをべおのくりをとも玄の。よてあつる例あ
けと玄おきととも玄の。ハ上およりくる時ハとも玄の
き。よよりぞのや類あよりかる時ハとも玄の。とやね

みぬくのくもぐもぐはぢぢりきぬなむくる花より何ねを

是ハ方々なる花より一輪をえぬ人のこゝ
こがへハおざりきと切々たる

ううふー人をきかぬまにれその顔はれといふ孫のてき。

かきくくんのやふむひきまうくとハセ人さづめよ

風も何くまき人様を白ひ何るぬまちるかりき

ける去のきハげりのクーあれバげりとソまんハ
一字にあら時ありきあうきえきあうきえ

おくま元祿の頃ハるるのきゝて切れさらあふはえは
 るるのきゝてあきあをりけりといふ
 祐成飯を喰ふときも時宗ハ喰ふりけり
 とつゝありてれはハ喰ふりきといふべきをまへり
 けりといふハきゝてけり

よのへ唇をくち秋の風

李

是ハ秋の風如ク
唇さむくとちり

我如子手如郎花

卷六

是ハをいふ——我々のまたをいふ。さび。と切。り

卯辰巳以以宿の宋忌

白猿

大原染之

晚山

是ハクんの金太夫茶屋を去る。と切なり

秋さびし
竹のまれあふきばう

山田
南
街

是ハ竹のきれあふききなり秋さびし。と切なり
後ち

是ハ花のきれあふききなり夕月東
雨け

是ハ花のきれあふききなり夕月東

是ハ花のきれあふききなり夕月東
也右

是ハ花のきれあふききなり夕月東
玄来

是ハ門の松月花のためなりと切なり

是ハ門の松月花のためなりと切なり
李白

是ハ秋の山いぐ栗のききなりと切なり

是ハ秋の山いぐ栗のききなりと切なり
暮太

是ハ秋の山いぐ栗のききなりと切なり

是ハ秋の山いぐ栗のききなりと切なり
ま考

是ハ秋の山いぐ栗のききなりと切なり

是ハ山里ハ秋歳なり梅の花
もを

是ハ山里ハ秋歳なり梅の花

是ハ山里ハ秋歳なり梅の花
月

是ハ山里ハ秋歳なり梅の花

是ハ山里ハ秋歳なり梅の花

是ハ山里ハ秋歳なり梅の花

是ハ山里ハ秋歳なり梅の花

是ハ山里ハ秋歳なり梅の花

是ハ山里ハ秋歳なり梅の花

是ハ山里ハ秋歳なり梅の花

是ハ山里ハ秋歳なり梅の花

是ハ山里ハ秋歳なり梅の花
関夕

是ハ夏大根よの中ハ。茶つゝあうすうと切らう

ま 十月ハ夜を益も思ふ

ニカシ

存奴

ら 箱根の人もあつゝと船の意

ラニカシ

を成

是ハけされまゝおゝ人。あつゝと切らう

ら 麦をよれ花。おがきぬ

ラニカシ

素堂

けら 月をよ。のさむけら。年終書

を成

是ハとれれ月をよ。のさむけら。と切らう
かゝる時のけら。ハけら。れこ

けら そのみハ谷路ありけら。小秋礎

を成

是ハハ秋礎あり。ハ谷路あり。と切らう

古今
花のよ。まの。あつゝと切らう。ハも。う。あつゝと切らう

昔
昔年。よ。あつゝと切らう。ハも。う。あつゝと切らう

立田川。あつゝと切らう。ハも。う。あつゝと切らう

影
影。あつゝと切らう。ハも。う。あつゝと切らう

是ハ白が乃衣。あつゝと切らう。ハも。う。あつゝと切らう
あつゝと切らう。ハも。う。あつゝと切らう

外 十八十九二十の格

外二十 景清も花見の座。七を清。

を成

是ハ。あつゝと切らう。ハも。う。あつゝと切らう
下。あつゝと切らう。ハも。う。あつゝと切らう

外十九 送れつ。送りつ。水。秋。

是ハ。あつゝと切らう。ハも。う。あつゝと切らう
秋。あつゝと切らう。ハも。う。あつゝと切らう
ら。あつゝと切らう。ハも。う。あつゝと切らう
秋。あつゝと切らう。ハも。う。あつゝと切らう
り。あつゝと切らう。ハも。う。あつゝと切らう

外十九

けきも又りてー同ト事。 秋風
是ハ事とありて下へ。と二字入てふ。こておをハ秋
今てハまゝ十九の格と

外十九

雲をあと一近行もおあづる。 中破
是もふとありて下へ。外のけりあれば。と二字入
てり。とておをを今てすまゝ十九の格と

外十九

づづたふれふも。秋の系。 首良
是ハいづと数のけをあげ。と定る格もむきびて切と
を。とて下へ。づづけけけけハ。と。の畧言けけ
るハ。曾良。病も。と。或ハ。列も。時あれば。づづく。ふた
ふれ。ふ。と。も。秋の系。と。い。ふ。と。す。あ。され。を
系。と。あり。と。下へ。と。と。二字入て。双。左。け。を。今て
す。ま。ゝ。十九の格と

外十九

本宮の御もさぶ。あめ。後の月。 左良
是ハ月とありて下へ。と。と。二字入て。す。ま。ゝ。十九の格と

外十九

雑水のきと。ろ。な。る。は。冬。の。影。 其角
是ハ。影。と。あり。と。下へ。あり。と。二字入て。り。と。今て。き。く。十九の格と

外十八

よ。す。山。又。す。る。り。ま。な。也。 々良
是ハ。也。と。あり。と。下へ。利。の。け。り。あ。れ。ば。ま。と。一。字。へ。つ。と。と
と。十八の格と。別のや。影。ホ。の時。ハ。お。と。入。る。格。と。あ
あり

外十九

か。る。る。根。を。所。り。て。藤。花。花。 吐月
是ハ。花。と。あり。と。下へ。と。と。二字入て。す。ま。ゝ。十九の格と

外十九

夕。暮。を。こ。ろ。く。て。初。時。雨。 柳ル
是ハ。夕。と。あり。と。下へ。と。と。二字入て。す。ま。ゝ。十九の格と

外十九

宵。戸。の。細。花。子。を。な。み。て。花。虫。 且良
是ハ。花。と。あり。と。下へ。と。と。二字入て。す。ま。ゝ。十九の格と

外二十

夏。月。改。を。所。り。て。あ。る。西。 其角
是ハ。月。と。あり。と。下へ。と。と。二字入て。す。ま。ゝ。二十の格と

[illegible]

同治癸丑仲夏 初 錄

見。同。の。案。山。郭。の。初。能。と。よ。う。し。て。の。と。く
と。は。各。の。左。の。所。を。見。て。自。た。を。れ。は。判。の。河。あり
左。の。文。字。を。の。字。か。し。も。目。子。書。目。案。耳。は。郭。を
口。は。初。能。と。書。く。所。ら。一

[illegible][illegible]

古今一理也

けり。切を格を
七の主たるはれも
切を八の格の一之
致白小十八十九
二十の格あり。ハ
いふ。中來に文
あるハ、ハ、ハ、ハ、ハ
あむと云ふ意。

2000 1000 500 250 125 62 31 15 7 3 1 1/2 1/4 1/8 1/16 1/32 1/64 1/128 1/256 1/512 1/1024 1/2048 1/4096 1/8192 1/16384 1/32768 1/65536 1/131072 1/262144 1/524288 1/1048576 1/2097152 1/4194304 1/8388608 1/16777216 1/33554432 1/67108864 1/134217728 1/268435456 1/536870912 1/1073741824 1/2147483648 1/4294967296 1/8589934592 1/17179869184 1/34359738368 1/68719476736 1/137438953472 1/274877906944 1/549755813888 1/1099511627776 1/2199023255552 1/4398046511104 1/8796093022208 1/17592186044416 1/35184372088832 1/70368744177664 1/140737488355328 1/281474976710656 1/562949953421312 1/1125899906842624 1/2251799813685248 1/4503599627370496 1/9007199254740992 1/18014398509481984 1/36028797018963968 1/72057594037927936 1/144115188075855872 1/288230376151711744 1/576460752303423488 1/1152921504606846976 1/2305843009213693952 1/4611686018427387904 1/9223372036854775808 1/18446744073709551616 1/36893488147419103232 1/73786976294838206464 1/147573952589676412928 1/295147905179352825856 1/590295810358705651712 1/1180591620717411303424 1/2361183241434822606848 1/4722366482869645213696 1/9444732965739290427392 1/18889465931478580854784 1/37778931862957161709568 1/75557863725914323419136 1/151115727451828646838272 1/302231454903657293676544 1/604462909807314587353088 1/1208925819614629174706176 1/2417851639229258349412352 1/4835703278458516698824704 1/9671406556917033397649408 1/19342813113834066795298816 1/38685626227668133590597632 1/77371252455336267181195264 1/154742504910672534362390528 1/309485009821345068724781056 1/618970019642690137449562112 1/1237940039285380274899124224 1/2475880078570760549798248448 1/4951760157141521099596496896 1/9903520314283042199192993792 1/19807040628566084398385987584 1/39614081257132168796771975168 1/79228162514264337593543950336 1/158456325028528675187087900672 1/316912650057057350374175801344 1/633825300114114700748351602688 1/1267650600228229401496703205376 1/2535301200456458802993406410752 1/5070602400912917605986812821504 1/10141204801825835211973625643008 1/20282409603651670423947251286016 1/40564819207303340847894502572032 1/81129638414606681695789005144064 1/162259276829213363391578010288128 1/324518553658426726783156020576256 1/649037107316853453566312041152512 1/1298074214633706907132624082305024 1/2596148429267413814265248164610048 1/5192296858534827628530496329220096 1/10384593717069655257060992658440192 1/20769187434139310514121985316880384 1/41538374868278621028243970633760768 1/83076749736557242056487941267521536 1/166153499473114484112975882535043072 1/332306998946228968225951765070086144 1/664613997892457936451903530140172288 1/1329227995784915872903807060280344576 1/2658455991569831745807614120560689152 1/5316911983139663491615228241121378304 1/10633823966279326983230456482242756608 1/21267647932558653966460912964485513216 1/42535295865117307932921825928971026432 1/85070591730234615865843651857942052864 1/170141183460469231731687303715884105728 1/340282366920938463463374607431768211456 1/680564733841876926926749214863536422912 1/1361129467683753853853498429727072845824 1/2722258935367507707706996859454145691648 1/5444517870735015415413993718908291383296 1/10889035741470030830827987437816582766592 1/21778071482940061661655974875633165533184 1/43556142965880123323311949751266331066368 1/87112285931760246646623899502532662132736 1/174224571863520493293247799005065324265472 1/348449143727040986586495598010130648530944 1/696898287454081973172991196020261297061888 1/1393796574908163946345982392040522594123776 1/2787593149816327892691964784081045188247552 1/5575186299632655785383929568162090376495104 1/11150372599265311570767859136324180752990208 1/22300745198530623141535718272648361505980416 1/44601490397061246283071436545296723011960832 1/89202980794122492566142873090593446023921664 1/178405961588244985132285746181186892047843328 1/356811923176489970264571492362373784095686656 1/713623846352979940529142984724747568191373312 1/1427247692705959881058285969449495136382746624 1/2854495385411919762116571938898990272765493248 1/5708990770823839524233143877797980545530986496 1/1141798154164767904

此乃...
 ...
 ...

彩雲

是はうぐいのやにうあつ是はうあつて新ど

いふけきむさぶ格

いふけ

星れ袖あふひ。星れたるの川

宗春

是ハ星れ袖あふひや。一とあふびとあるを星の川のいふけきむさぶのり

いふけ

又たぐいあがれ川乃ちゆ餘

もせ成

是も又たぐいあ。一とあふびとあるをあがの川のいふけきむさぶのり

いふけ

夕より見一花の香も夏衣

後吉

是も夕一花の香もあ。一とあふびとあるをあつ衣といふけきむさぶのり

いふけ

市中をのづれて月が角田川

角折

是もづれて月がま。一とあふびとあるをまづ川といふけきむさぶのり

いふけ

茅野山よりんよはは逆あくる

洞月

是もあくるよは。一とあふびとあるをまづへいといふけきむさぶのり

いふけ

木くひはちれけをあげ取中

もせ成

是ハ木くひより。一とあふびとあるを木くひといふけきむさぶのり

木くひはちのけや。あけ取中

是はれども木くひ。一とあふびとあるを木くひといふけきむさぶのり
このとや。一とあふびとある。一はやハ秋衣のや。あふびとある
は。いふけのや。あふびとある。あふびとある。あふびとある。あふびとある
人け。あふびとある。あふびとある。あふびとある。あふびとある。あふびとある
おろろ。け。あふびとある。あふびとある。あふびとある。あふびとある。あふびとある
い。あふびとある。あふびとある。あふびとある。あふびとある。あふびとある
る。あふびとある。あふびとある。あふびとある。あふびとある。あふびとある
た。あふびとある。あふびとある。あふびとある。あふびとある。あふびとある

あふくせをきくが、この科あぶー

今案

是はふもあーとつとあるを「あづはの」とい
うけそむまびあづとつぎと

新古今

是も程々きこふ。あやうと云ふあるとおぼ
のこゝと云ふけふもあまびりりおぼふは
貸借やといふやうなるハ

後拾遺

けやをあしそつてそこあつてゐる。——そいふ
 かいのやをいふぬ初めて云とむらびて下へおん
 と三字入てゆゑにこゝれれや。をりやうて雲と
 け下へあしと初めハおどけいふゆゑなる白雲
 けとそる時ハいふまじきうゑいひのやあること
 はある。

々 部

刑とハズヤ、然こそ能刑と云ふことあり
 何よりかゝるべき一ツ刑と云ふは、然ハ

の外

うぶ づ

分

宗祗

分

孝

外

玄來

外

嵐

外

素堂

印

不角

外

夢之太

分 燃るあゝ思(ば)ゆる蚊まをれ

木阿

分 梅柳さてもる荒家女の那

木成

けりやあま

●梅柳さてもる荒家女

とりり思ふのちいさにもありてふーいぞとつゝ河ハ
推量のまゝと上より推量の初よりとりてハくまふる
らむ 推量の初より上よりまゝとつゝいさむびあれば下ハの
分のかたりとふゝいさむ

子我

是もいさむさむむれちまりぞとあやめうらやましきあ

是ハ二葉とつゝのさきけぞハ切々ぞをどと
あて下(づ)げり上のいざかのまゝいさふとり
近(づ)りて下(づ)をハ(づ)らばあつとあて下(づ)き
ておれさハあひあぬいさ世のちぎらげとあ
んをあてめてもおはるきこくおれいさ
右のさるおれぞハいさ又あの上よりあてめ付てき

ぞと見あててさざとあーはりいさあ

分 水底を足てあゝ顔の小野か

丈艸

分 高枕を足ハものまゝ柱の那

子那

分 念入る冬うつづむ桂の那

曲衆

分 蚊帳つゝんはどと一夜二枚の

六窓

分 星麻(ま)と手お動きやむ園扇の

秋風

分 淋(し)さああそとけゝ巨燈(と)のな

挑先

分 新歌のちぬんそ女(を)の那

半裡

分 西風(かぜ)よりやあそとぬ朝(あ)れ

素堂

分 井のあれわゝふなる宇(う)の那

李下

わ 秋も 井そのまに 足ゆるれ 重五

是ハいつと数行あれども下にも文字あるハもて何あれが
うゑとありてもそこあひあけこゝハ数の新もいつ

の 何とあく 極一が 業れ 白きうふ 巴丈

是も数の新もいつとて数まの下よと文字あるも何
あるや下よりあるもいつとて

はたき
うよりなるなり秋の月あれはる人よといひてきくれ

是あゝあむて数行の下よと文字と文字もハた
何あれバぞこそや数外あつゝあむふまうても
さうぬ河ありとてさう

の ぐ年の 白髪も 井乃 光うふ 玄来

これゝもあゝ因ド是ハもあゝあるの能うもいつとて
又数の新も数の下よとて何の能うもあゝ又数
の白法の能うのあゝもいつとて

わ 菜の花も ち実き 大和 河内 玄太

わ 草枯て 降よ ちうき 野守 玄阿

の 卯のふを ながし 几園の され 若良

叶ハ竹田植ゝ大実が白河の雲とをいふとてりといふ

わ 梅折て ちうき 追つて 白い 玄舟

わ 鶴山 月を 追ひ 千鳥 双鯉

わ 棹巾 千日の 隈と ちうき 文母

わ 大津 鈴も 丹の ころも 暑さ 玄太

わ 雲れ 字も 石白と 挽と ちうき 季由

の あゝん ちうき ちうき 玄知

あ我
きやまづれう現とうあひをひにうてもはまぬまう那ー

中

勺法

去て俳諧の句法も秘訣を以て示す
 お續のさなぐげあれハあり

まうなるものゝ

國郡名所
旧称故人之名
神佛月日
年々

新龍や扇のやと恒根のふ

其角

是ハオキナクハ秋扇ハ五ノ

卵
石
子
の
お
と
風
う
あ

嵐蘭

是ハ故人の名を季子よりとるに

大磯[△]砂の光り此暑をさうれ

陈曲

是ハ大磯と地名を變よりするに依

分
徑
田
柳
子
似
夕
丁
系

他者疑

是も名所を要ふを以て

夕聲也 秋ハ月ノ秋也

古子成

是も夕親の夜、あゝ秋はけるの古きみどりあるを
つまずきをまへん秋はるこれ花もぞありなるといふを
とめるや、や系といふと六俳諧のなるものゝあるを中
まで奇へあがむや、うゑがひのや、ぞこそ、類例はまうても
初の中と末をうへ、金その下へ、うゑもつゝもつゝあり

うふのそぢ

まづていふ糸の里波ハ
あまヲヨカロ
ヨカロ とんねー

ちりーちりーあふ坂山のさゆづー人よきそれぞさゆー
 又むかへがてーがあやぶあよりやあふは
 ちりーされがたがも思ふも

フ
部

行春城麦八穗
了阿

是ハ余情を下へあつちせうつゝ
 ぞいも心ちうまのくちありやち
 ちをちあせてあつちうつゝ何に
 まつちうつゝちをちうつゝ
 ちをちあつちせうつゝちをち
 ちをちあつちせうつゝちをち

てとろふかふつ

てのまのう
新量も
何をもう
孫ぞ
乱れつ
樂飢

是ハ上ノ教ニシテモウラフ。モトキチム所アレバテ、ミ通フ
ツレヲヨリウラフ。ソレヲ新章モミレテ、あゝを拒
ゾ。と切ラセマシ。

古今
山々々秋をこころとびりりれ廉のなく病は目をさる

てまうらつとあまの通つた時どく上り
るあまを以てそをあらわして下り上へ
るうらつと「麻のあまの目とさ麻」つた
甲の秋をこまにびく糸と切るまにけ
たひでまうらつとあまのうらつた
く向の中をまゐる

あづの
まはて
庵の
おも
みづ
くあり
ぬさ
つ
ナガラ
嵐
雪

上
納豆切多き方の中。体之記
主飯

占今
三 や
二 山
一 ね

是ハそれゆゑ申すに便しむぬとよ山ほくちん
こつてんやもまどとあつたえんやよのや
ハ新島のやまふつと河なれば切れぞ新島のや
もやよやいぞやそやいばやいりやあふれハ
新島のやあれどもた辞せて切れぞ

ハ一夜事之字音々々初時反 尚白

主因で被れ垣むきき
透隙

新古今
 ちとむきくさうにそあれども。ふみひげれけ下るる。

下
敷足れもよりやさん梅の花

是くめれふなりとねん殺見れと知なり

れ
日とれぬや舟のれ女も夕
風虎

是ハ女たあぢふ日もくれぬをや舟のれと切りり是本の
二三百ハ一石の中子切り格ニウあれどもまふとけりてッる
取そくく一ツも是あまあぢふして十七字ゆあるあぢふハ
まのつゝもんぬきまふよりて切るふをあぢふといへ
あぢふくまふくごといへ三版切二版切あぢふといへ
まのつゝといへまぢふといへ

子哉
これぞめづるおられ山桜くぐたれよきとまどふとくる

是ハ卯のうりを早ぬ。そしてむきびうす。おろれ
とち抄よて切た。がとりふ穀詞をふ。ちむきび
て切るるを。と。受て下へつ。けて。か。を。ま。る。と
切。り。糸。四。つ。あ。れ。ど。も。山。さ。さ。う。た。が。く。ち。あ。ま。ま。て
ま。じ。ふ。と。う。ま。る。ら。れ。さ。と。ぬ。う。す。ハ。お。ろ。れ。と。ち。知
る。と。留。う。と。り。

うごふふ。ほの花も浦のまゝ
をせん

五

別
二日ものゆかりハセどふの春
を成

古今
あまめづるをれをうがをえつゝ我君よきと人ほかにあふ。

わあふもれすのうもるやうに

[illegible]

いづゝもあはなうぬんおがつゝ系に明ぬきうハ秋ぞと思へん

けきのまのふ。い下つてきておもしろ。と當るまゝ
石の傍へ舞のまのふ。い下知はあゝねど下知
のふれつてごまけり。いさめれいひを海を
るも。いさめ

ひそかに書つたよしの秋をふかきあやなんぞゑきき

是も吾の意の如く。之を前するハと云切られし。も
爰句にある吾の意ハ。おきかれバ切らる。

ふ
て

叶ハ勿能^ナク

夏来ふ山風かづきそ山さる

[illegible]

玉川のあふれを中島へ
を流す

是もなまをてゝ一玉川の氷まゝにあがれ。そと切るとえ是
ハ古写本をてゝせりける市物よ

●玉川のあふおぢれをまゐ

と有り是ハおと有りてハは極子にうつられバ皆ハおと
字をともがきたるものとてそとよりそを畧する所ハ

万葉
妹がわたりお袖うゝんあはぢよりぞくる月は千五百松の

是ハ下の所を越えざるなり下ふをへて中をえ

初さう花をうゝ。村花

花あちをとりて、
花をとりて、
花をとりて、

柳下泥系しづをむも意
左耳成

是八山燕拂溪多物

第北水子董家柳子黑燕

是も里つゞめ茶のあらは茶あかしくそと切なり

數あるものなり。玉糸

是より玉より救ふめをうとふ。おひき。とやう

秋ふ刈を粟よりあつた男
其角

是ハ西風ヲ拂ク以て国力ニ秋ナリト云フ

新古今

夫木爲本

夫木更本
 是乃松系也。其木之生。解の風。ふりて。れ。
 けいふ。ふ。ふ。屋の。う。う。角。あ。れ。ば。て。り。ふ。れ。
 けいふ。ふ。ふ。は。れ。と。ば。い。の。と。あり。更本の
 へいふ。

古今

山ふきハ何やあ。さ。花。えんと。えん人のこよひにあく
けあハ。えハ。花。えんと。えん人のこよひにあく。山。ふ
き。の。こ。よ。ひ。に。あ。く。

之やあまのこころとてあまのこころ
あまのこころとてあまのこころ

Handwritten text at the top of the first page, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a small box, likely a date or reference number.

Main body of handwritten text on the first page, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten text in a small box, likely a date or reference number.

Main body of handwritten text on the first page, continuing from the previous section.

Main body of handwritten text on the first page, concluding the first section.

Handwritten text at the top of the second page, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a small box, likely a date or reference number.

Main body of handwritten text on the second page, starting with a new section.

Main body of handwritten text on the second page, continuing the narrative.

Handwritten text on the second page, possibly a signature or a specific note.

Handwritten text on the second page, likely a date or reference number.

Handwritten text on the second page, likely a date or reference number.

Main body of handwritten text on the second page, concluding the second section.

Handwritten text on the second page, likely a date or reference number.

Handwritten text on the second page, likely a date or reference number.

万葉

いざれ海土のちれあふづくとあふびの貝れをいひて
是も下は余情をいひてなり又

古今

みちれくちのすぢきりていれあふびれをいひて
是もあふびと余情をいひてなり又

○

あふびとありてなりあふびとありてなりあふびとありてなり

松葉

いざれ海土のちれあふづくとあふびの貝れをいひて

是ハあふびとありてなりあふびとありてなりあふびとありてなり
一入してあふびとありてなりあふびとありてなりあふびとありてなり
あふびとありてなりあふびとありてなりあふびとありてなり
あふびとありてなりあふびとありてなりあふびとありてなり

○

せばとありてなり

千載

いざれ海土のちれあふづくとあふびの貝れをいひて

是ハあふびとありてなりあふびとありてなりあふびとありてなり
あふびとありてなりあふびとありてなりあふびとありてなり
あふびとありてなりあふびとありてなりあふびとありてなり
あふびとありてなりあふびとありてなりあふびとありてなり

● 新古今和歌集

いざれ海土のちれあふづくとあふびの貝れをいひて
是も下は余情をいひてなり又
あふびとありてなりあふびとありてなりあふびとありてなり
あふびとありてなりあふびとありてなりあふびとありてなり
あふびとありてなりあふびとありてなりあふびとありてなり

のそん例を以て全情をやりわてゐるも私に
例を以てまづ自由におのがちふひに就け
これハ素堂ハ祈の例を以てべと第ハ告白ありこれハ
十九の格も同一と云ふ

蓮の實よとも花あり唐澤。安
素堂

是ハ一とありて下ハ一と二字に集積之て水ハ
おなじやも亦ちもいへりて一とありて

能因法解の云々集

仕をそと高子のつるはる冬推の社をそ

五とせハ志ヲ此様ニツキテモ、今ハ悔ヲ花のミヤニ
ミテ

是よりよみてきとけり格あれどもまゝハ下へつゝ
きてそゝハ梅の花のこころとてめづるをいふ
もゆゑといふ二字ハ余情也

古今

今度より子へき人におのちのちハきびしくして門せせりて。

ハハ
ハの反乃ち我わがでふくをせしむてえ

いふとわかして切るまゝに別ありけり

正親
勺法

四月中の酉日加茂の社奉納

祭まつり冠かんにくやあひ系けい
了阿

ま
を
か
や
あ
さ

是ハ通類を六字句の次と云つたより、並を正親白子
より之れも下より上へち久し

あひきつりお
はろりふくや

と切多やみそ切よりけ格ハ神祇を調又ハ祝言

賀	ま	え	や	さ
ホ		ろ	あ	
小				さ

けごく アカサ。タナハ。マヤウ。は十字のオ。めて

六字句のうゝと句つゝと五十字韻の横

十字結申の版あても六字くまろを正

親
与
と
り
あ
ふ

親句

句法



け○下のあへ五十字横十字の中あへも竖五字の中
あへも三字句附へてあへを親句といふ

① 神代宮や葉枝の花枝ぬさおせん 拾栗
②

是ハ竖五字十二又子ハ 結うちを二字句のうへへ
むきひたり

① いく年か白髪も神のひかりか 玄井
②

是ハ横十字にキニ子ニヒミイリ井のキを三字句の
うへへむきびうり句法ハけこしくちれども神祇を納
祿言賀未ふせひ親句ふせよといふハあへて誂句を

古西三十一

親句はまじりといふ常れ句作りまもまじりといふべ
又いふ句をまじりといふ白紙句といふなり

○あへ人婚れり親のあへ句ハ切字不入口傳といふども
まじりてまじりのあへ切字を切字といふハ切字も有まじり
とつたまじりハ人婚れり親のあへ句をいふハ切字も有
尾能あへて子ゆふ歳あへてまじりまじりといふ時ハ
けのうりまじり切字ハ切字を入るハ切字といふなり
どきおのこハあへてふあへてまじりまじりといふなり

五十字韻

上ハ五字をいふ字といひ下ハ五字をいふ字といふ 父母
親今あへて字といふ反字といふ

父字ハ竖五字附を上 下ハ部くのとて横五字に
母字ハ横十字附を左右のみ部きて横五字に

たゝバけり。をうけよけハ上なれば父字ありハ下あれば
 母字よて父字れけを母字れり。此ある二版一あがれば
 母字横ふ父字より合ふきく是を及字とてさされけ
 り。ハ上なれば父字のきくつて二重及とつハ二重及を
 うきめえたゝバく。らむ此を字を二重及はもれハく。ら
 ぬ及。り。け。く。む。を。く。せ。バ。く。と。一。字。よ。つ。ま。る。く
 されバ

肩拂をおもぐやして紅の元（きんぎょ）

是ハ上なれば父字のきくつて十九の格あり。飛とあり。く。ら。下。一。あ。が。り。
 と。二。字。あ。て。ま。さ。あ。る。が。け。り。ま。さ。ハ。さ。く。と。あ。る。く。は
 くらん此のく。と。又

うきめき根ハよりふして藤の元（ふじのき）

是も同じ十九の格あり。けり。ま。さ。ハ。さ。く。と。の。く。ら。あ。る。と
 ち。の。ま。さ。より。て。差。別。あ。る。と。さ。ら。に。あ。る。と

○ 縦文字のうち父字と
 母字とあり。母字ハ父字と
 及やあり。母字あり。と
 ち。わ。バ。く

○ 横文字の中父字と
 母字とあり。母字ハ父字と
 及やあり。母字あり。と
 こ。ち。わ。バ。く

○ 二重及ハ三文字あり
 ○ 三重及ハ一ハ四文字あり
 二重及ハ三文字あり。二重
 及。ハ。三。字。あり。と。一。ハ。四。字。あり。と
 同。じ。と。い。ふ。と

初版	あ	う	さ	た	あ	え	よ	や	ら	り
二版	い	き	し	ち	ふ	ひ	み	い	り	め
三版	う	く	を	つ	ぬ	ふ	む	ゆ	る	う
四版	え	け	せ	て	ね	へ	め	え	れ	急
五版	た	こ	そ	と	の	ほ	を	よ	ろ	を

り山の嶺めくらまうふくくらまうとつ
ささきてらまう。ふらふ辞ハらバをのべ
たるう果之らまう。新四字を三き及み
そればら。とふまを下おバを添てらバ
あうまう

あふとなく芝吹風も阿れあり。 秋風

是ハいふも秋のけしきをるるやうと思える上の歌
こゝをハハふ。ふ字あれハた。辞あれハたのむむびあるな
おあうりまう。り。とやう

沖さーあぶさーつ麻ぬね式 鬼貫

是ハ題ハ待意のふくこれ。もいふもその歌とやう
つハあう。とらう。う。つ。く。ま。て。つ。と。り。辞。ハ。沖。さ。ー
あぶさー。つ。と。う。つ。を。た。み。て。つ。と。り。と。や。う。ぬ。ね。ー

物の名

是ハ半そり種もいふ

ふ芳物をうて入あうる句

子枝を足よ志の田枝敷の友木立 空山

是ハあふの友木立あえを足よ。と下初て切り

立田川をたてられあうる句

鴨ハ。つ。あ。い。それ。り。あ。さ。山。風 後芳

是ハ 鴨。あ。ー。か。も。ハ。さ。た。う。ハ。それ。り。と。切。り

あふ神のこやう

松き物名

あふも。あ。ふ。り。あ。う。せ。り。を。あ。ら。ふ。神。の。こ。や。う。と。え。え。ん

あーうあ

日

津の國の新度。う。つ。る。田。ハ。あ。ー。う。あ。う。と。え。え。ん。と。え。ん

廻文歌句

村萩ハ風も時をせう萩をらん。

寶山

洋れ名をあらぶれあらド荒の咲

日

廻文の最も作りやうハちろき碁石ハ彼岸をわき
中の一文字ハ紙(書)てあ方同字をハツ、並てオ
ト

オオオ ののの ののの ののの ののの

け整ひをうろも考へ並てあ方同字を並て
ん合て作る一、さて通してをうろのひと

改むべし中の三文字ハ歌林良哉有

ムラヲトハカセモノモセカ、キヲム

○上ふあけうてふを波の格あふふあるハ、詩にせうあ
ふハけちうもくまう格あれともあふハ、詞みくまうのゆえ
いひく格ハ、能うあ、一、ハ、詞あきゆえ二、ふ、その格
あれともあふふハ、うてふふそのふとハ

中務集

花をこそ人やをる。そとがあらう、萩あめををうふハせん
けこそなきハ、うてふかりたりをるふ整ひのやをると、格
て切られハと、文てり、うてふふそのうけ格ハ文章子
あほう、俳句物語小どのなきのあんとぞと二、ふ、そのハ
一、廊ありらふふあ、うてふ男ぞ、あて、うとあ、うて、う

是ハどのなきあんと

是ハどなきのあんちれハ、ふむきび辞ある格、是もあ、同ド
格、あて二、ふ、そのう、二、ふ、そのう、ハ、あて、と、文字、ふ、を
はくべし、初住席の記、あ、あ、け格あり
古写本の方ハ

賢愚文傳のひしめきも、これを知の拙者なり。此の
 持てふ一冊、と阿比、家格を知らせしむ。又、
 下へきて所法からあれ、ぬと云ふ。又、本の方、

づれり 知の拙あ 本を又ぞ持て予一 ぬ 是は文章のあらうなり
あらうと云ふれに
の
 とあり見は「主なるものも疑ひの辭をからぬ」ぬ を讀み
 ぐ格あらぬ ぬとあるに、変格の文章も下はらふに
 変格あらぬと見は、文章はあらぬ、ぬ と云ふも
 ぬとあるに、文章は、一冊あるは、人かきし
 へあるものも数なりと見は、文章は

[illegible]

く。ま。つ。早。ぬ。ふ。む。ゆ。ろ。り。雲。巻。一。

[illegible]

ありあはちを預け
戯言も口より歌ふ未
来といふを
そとふこそ
ハを未
来といふハあ

○初学はともぐさ、教へたる時始に形をいふて示すに
 ば、おのづからあはれる、そのあはれは、なにか、く、げ、た、ぬ、文字に
 ニ、あ、字、入、て、セ、文、字、ハ、也、セ、文、字、を、ニ、文、字、と、り、て、五、文、字、可
 也、一、の、句、と、ニ、此、句、を、入、く、あ、と、は、よ、れ、や、と、作、る
 べし、金、葉、集、小

四字 三字 三字 四字

四字 三字 三字 四字

是ハ我輩のけーきを人々んせざるもいそをかく四字三字
三字四字ふりうもあぐさぬふりてえけ格建仁三年閏九月
仙洞奇合又月清集ももあれうれんゆさてあふふりて
あふてあをそりそのひを改むべー又二の句あてあまの句
つめをてといふうありあふてを

裾をかき上げて花臺
ヒ○キ
ク○ル

ヒ○キ
ノ○ル○

是ハ十九能格くけとて二の句づめきてとつバ切れども
下へはぐく意あるものなれ。つゝもべき所をみてとてあ
るのひうめる句もいとおほくりして明てとある句は其の
例を以ててもそと下は余情をふりませてあるものとて
たゞ上へはぐんと思ひて二の句づめ切でとけるハあらざるべし
二の句づめ切でよりかりて動ぬ言まであるハこそよきより
て用捨差別あるべし。でいつくのおて切るものハ何れに
○やハ款息のまはつきてやのやかとつ意あるハ切られども款
息のまはつきとも小おのがまたやと切らんあどいふハひが
こゝろ又りと切べき所をやとりおも例ありあるふけ誤
凡そとせあまりあゝあざれば今人の妨ひい今人の誤は
何れにせむかと思ふ代々の撰集二十六人の家々結集
をもく重くするべし。或は或は或は或は或は或は或は或は
・夏の月清油より出て赤坂やとりり小本の二本ハハ
・夏の月清油より出て赤坂やとりり小本の二本ハハ
なごりて写し誤りおほなることをあるべし。

○あゝんを皮口候の書とて扱へんや中ニサの
 やゝあゝ又詞は音尾とて扱へんや中ニサのやと
 あゝは向ハ音尾附向の詞はサの一字候やとて
 らは向ハてとて扱へんやとて扱へんやとて扱へん
 やと雜のやとて扱へんやとて扱へんやとて扱へん

時書	口合のや	又やゝとて扱へんやとて扱へん
詞音尾	口合のや	水やのひら用もて扱へん

けやゝあゝの切字も成平のひらとて扱へん

と有見ハ二つ其不難ひのやとて扱へんやとて扱へん
 時書の方ハ難ひのやとて扱へんやとて扱へん
 らは向ハてとて扱へん 詞音尾の方ハ向ハてとて扱へん
 公用もて扱へん 水やのひら用もて扱へん
 成とあれども切やとて扱へんやとて扱へん
 あれ切やと難ひのやとて扱へんやとて扱へん

和語ハサト

附向の時難ひのやとて扱へんやとて扱へん
 らは向ハてとて扱へんやとて扱へん

時書	切や	教給や切やとて扱へん
詞音尾	切や	お給の切やとて扱へん

けやゝあゝの切字も成平のひらとて扱へん

と有見ハ二つ其不難ひのやとて扱へんやとて扱へん
 時書の方ハ難ひのやとて扱へんやとて扱へん
 らは向ハてとて扱へん 詞音尾の方ハ向ハてとて扱へん
 公用もて扱へん 水やのひら用もて扱へん
 成とあれども切やとて扱へんやとて扱へん
 あれ切やと難ひのやとて扱へんやとて扱へん

時書	切や	教給や切やとて扱へん
詞音尾	切や	お給の切やとて扱へん

と有見ハ二つ其不難ひのやとて扱へんやとて扱へん
 時書の方ハ難ひのやとて扱へんやとて扱へん
 らは向ハてとて扱へん 詞音尾の方ハ向ハてとて扱へん
 公用もて扱へん 水やのひら用もて扱へん
 成とあれども切やとて扱へんやとて扱へん
 あれ切やと難ひのやとて扱へんやとて扱へん

文化元年甲子仲夏刻成

同十三年乙亥季冬發行

兩國橋通吉川町

山田佐助

神田鍛冶町二丁目

北島長四郎

江都書林

